

(公社) 日本地すべり学会新潟支部 支部総会・シンポジウム
「UAV・SfM 技術の地すべり研究への応用」

開 催 報 告

去る平成 29 年 6 月 9 日（金），新潟県民会館において，平成 29 年度支部総会と第 45 回地すべりシンポジウムが開催されました。参加者は 81 名でした。

地すべり等斜面災害の調査・研究分野では UAV・SfM 技術の利活用が急速に進んでおり，容易に立ち入ることができない現場においても，「高精度」の地形情報を「迅速」に得ることが可能となっています。一方で，UAV を飛行させる際の安全管理や，SfM での解析精度を確保するための留意事項など，検討すべき課題も顕在化しています。このような状況を踏まえ，今回の地すべりシンポジウムは，地すべり学分野における UAV・SfM 技術の最新動向を学び，今後の研究・技術開発の可能性や方向性について議論することを目的に開催されました。

午前の部は，国土地理院の大野氏より「UAV（ドローン）を用いた災害調査，測量技術」と題して基調講演を行っていただきました。午後の部は UAV・SfM 技術の活用事例として，アジア航測(株)の澤氏より急崖の落石対策における調査・設計事例，国土防災技術(株)の山村氏より災害前の DEM やオルソ画像との差分抽出から土砂動態を推定した事例，防災科学技術研究所の内山氏より雪崩災害現場における積雪深の推定事例について，ご講演をいただきました。また，新潟大学の西井氏からは今後 UAV・SfM 技術の導入が期待される研究分野として，複数時期の LP データを用いた地すべり変動域抽出手法の開発・研究成果について，紹介していただきました。

総合討論は，講師の方々にご登壇いただき，パネルディスカッション形式で行いました。ここでは，UAV・SfM 技術を地すべり学分野に適用する上での留意点や，技術開発に対する今後の展望などについて活発な討論がなされました。シンポジウム終了後は会場を白山会館に移して意見交換会が行われ，午後 7：00 過ぎに散会しました。

（文責：新潟支部副幹事長 渡部哲也）



シンポジウム（総合討論）の様子



意見交換会の様子